

## 成人看護学実習における健康増進センター実習の学び（第3報）

～実習方法変更の効果の検討～

甲賀 純子<sup>1)</sup> 横田 修二<sup>2)</sup> 宮堀 真澄<sup>3)</sup>

### Learning of Health-Promotion -center training program in adult nursing clinical training (The third report)

～Examination of an effect of a training method change～

Junko KOUGA Shuji YOKOTA Masumi MIYAHORI

#### 要旨

筆者等の先行研究第2報の結果を基に、健康増進センターの実習方法を変更した効果を明らかにし、より効果的な実習方法を検討することを目的に、健康増進センター実習記録内容から学びを分析した。その結果、以下のことが明らかになった。①実習記録用紙の項目を、評価表の視点に添い思考段階を踏み記述できるよう設定したことで、記述内容の焦点が絞られ、さらに視点も広がり明確な記述となった。②事前オリエンテーションで既習学習の復習と実習との関連性を動機付けたこと、カンファレンスで経験したことが意味づけできるように教員が意図的に介入したことにより、実習記録内容は、自分が経験したことを基に理論を活かした考察ができていた。③今後の課題として、感想レベルに留まっている学生もおり、学生の個別性を把握した上で、看護師の行った健康教育について、場面毎にその場で意味付けられるような関わりの必要性が示唆された。

キーワード：成人看護学実習、健康増進センター実習、学び、実習記録、実習方法

**Summary :** We analyzed data from health promotion center training record contents for the purpose of clarifying the effects that changed the training method at a health promotion center, based on the results of the second precedent study report, and by examining a more effective training method. Therefore, the following became clear. Focus on description contents was discussed and “the role of a nurse” in a health promotion center along with “an ideal method for health education. regarding it, We complied with a viewpoint of an evaluation list and went through a thought stage, to be able to describe an item on training record paper, and a viewpoint with a clear description. Reviewing it and learning with the consideration that I made use of a theory in motivated relevance training, and, prior orientation, already was effective. The training record contents were considered based on personal experienced. When teachers intervened intentionally, what was experienced through conference training gave deeper significance, and was more effective. However, it is needed for students remaining at an impression level, to learn a relation given deeper significance to the relation of a nurse during training program.

**Key words :** adult nursing clinical training, Health-Promotion-Center,  
learning ability, training record, training method

## I. はじめに

A短期大学では2004年度より健康増進センター実習を開始し、2005年度に筆者等の先行研究第1報において、学生の実習記録内容の分析から健康増進センター実習における学びを明らかにした。その結果、学生は受診者の生活を中心とした指導の重要性に気付き、健康教育における看護の役割を理解していた。しかし、実習記録内容は実感したことがそのまま述べられている現状であり、理論化された考察には至っていないことが明らかとなった。そこで、筆者等の先行研究第2報では、健康増進センターの実習意義を明らかにし、学生が考察に至れるように効果的な実習方法の検討を行った。その結果、成人看護学実習で健康増進センター実習を取り入れることの意義として、健康レベルの違う対象を理解するだけでなく、生活習慣病の予防と健康教育の理解を目標とした第一次・二次予防の実際について学べる機会となること。看護学教育に求められている看護学実践能力の「健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援」能力の形成につながる事が明らかとなった。また、効果的な実習方法の検討点として、実習記録用紙の変更と事前学内オリエンテーション・カンファレンスの充実の必要性が示唆された。この先行研究第2報の結果を受けて、2006年度の健康増進センター実習では、記述すべき内容の焦点を絞ることができ、思考段階を踏むことができるように実習記録用紙を変更し、学習の機会を有効に活用するために学内事前オリエンテーションの充実を図り、学生が経験したことを考察へとつなげることができるよう教員は意図的にカンファレンスに介入した。そこで、より効果的な実習方法を検討するために、実習方法を変更した効果について明らかにしたい。

## II. 研究目的

学生の実習記録内容から、健康増進センター実習における学びを分析し、実習方法を変更した効果を明らかにするとともに、効果的な健康増進センターの実習方法を検討する。

## III. 研究方法

### 1. 研究対象

2006年度看護学科3年次生のうち、前期に健康増進センター実習が終了し、研究に同意

が得られた学生31名の実習記録内容を分析対象とした。

### 2. 研究期間

2006年6月14日～2006年9月29日

### 3. 分析方法

自由記述方式の実習記録用紙の内容のうち、今回の研究対象である「健康増進センターにおける看護師の役割について」と「健康教育のあり方について」の2項目を分析した。記述された内容を単一要素になるようにセンテンスを区切り、それを1件として、意味内容が類似すると判断したものをカテゴリー・サブカテゴリー化し命名した。この分類した結果を昨年度の学生の学び(第1報)と比較し、学びの内容の妥当性を検討して、実習方法の変更点との関連性を分析した。

### 4. 用語の定義

本研究で用いる「学び」とは、健康増進センターでの実習やカンファレンスを通して学生が捉えたと、実習記録の記入によって整理された学生の認識とする。

### 5. 実習方法の変更点

#### 1) 実習記録用紙の変更点(図1、図2)

- (1) 2005度までは「対象の特徴と検診の内容」「看護師の役割」「健康教育についてのまとめ」の3項目であったが、2006度は実習評価の項目に合わせて、1. 生活習慣病と検診内容の関連性について、2. 健康増進センターにおける看護師の役割について、3. 受診者の特徴とライフスタイル・生活習慣病との関連性について、6. 健康教育のあり方について、の4項目に分けた。
- (2) さらに、健康教育のあり方を考察できるように、思考段階を踏むための項目として3と6の項目の間に、問診・健康教育を見学した症例の中から1例を選択して健康教育について具体的に考える項目を設定した。その項目は、4. 1) の健康意識について、4. 2) 社会的側面について、4. 3) 生活習慣のよい点・改善が必要な点について、4. 4) 今後起こりうる健康上の問題について、5. 4) の項目で上げた受診者に対す

る必要な健康教育について、である。

図1 2005年度健康増進センター実習記録

年 月 日( ) 学籍番号	氏名	健康教育についてのまとめ
本日の目標		
対象の特徴と検診の内容		
看護の役割		
		指導者の助言
		指導者氏名 印 教員氏名 印

図2 2006年度健康増進センター実習記録

本日の目標	4)今後起こりうる健康上の問題について
1. 生活習慣病と検診内容の関連性について	
2. 健康増進センターにおける看護師の役割について	5. 4で挙げた受診者に対する必要な健康教育について
3. 受診者の特徴とライフスタイル・生活習慣病との関連性について	
4. 見学した受診者の問診から、受診者の生活について一例挙げる 1)健康意識について	6. 健康教育のあり方について
2)社会的側面について	
3)生活習慣の良い点・改善が必要な点について	
	指導者の助言
	指導者氏名 印 教員氏名 印

2) 事前学内オリエンテーションの変更点

- (1) 健康増進センター実習の意義の動機付け。
  - ①成人看護学概論と健康増進センターの実習内容との関連性の意識づけを図った。
  - ②実習記録用紙の説明を通して、学習の視点を意識づけた。
  - ③健康増進センター実習の目標の再確認
- (2) オリエンテーションの時間の拡大

3) カンファレンスの変更点

- (1) カンファレンスのテーマを「健康教育に

ついて」に設定した。

- (2) 実習での経験を考察に深められる様に、教員による意図的介入を行った。
- 4) 臨床との連携強化
  - 変更点の1)～3)について臨床指導者に説明し、臨床指導者より全スタッフに伝達され、臨床と連携を図った。

5. 健康増進センター実習の概要 (表1)

表1 健康増進センター実習の概要

成人看護学実習の目的	成人期にある人々を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う
成人看護学実習の目標	1)成人期にある人々の特徴を理解できる
	2)成人期にある人々を支える家族について理解できる
	3)成人期にある人々が、健康な生活を維持、増進するために必要な看護の役割について理解できる
	4)成人期にある人々の健康障害時の状況に応じた看護を展開できる
健康増進センター実習目標	生活習慣病の予防と健康教育を理解できる
健康増進センター実習の位置づけ	成人看護学実習の目的を達成するために、病棟実習7週と「救命救急実習(救急外来・ICU)」「腎センター実習」「健康増進センター実習」を各1日行っている。
実習時期	成人看護学実習の最終クール前後1週間に設定
実習時間	8:30～15:30
1グループの学生数	5～6人
実習方法	1)事前学内オリエンテーションの実施
	(1)実習指導教員による実習の位置付けと意義の説明
	(2)実習指導者による健康増進センターの概要の説明
	(3)記録用紙の説明
	2)実習は、午前中は1～2名に分かれ「日帰りドック」「宿泊ドック」「乳房検診」「婦人科検診」(乳房・婦人科検診については各検診終了後「日帰りドック」を見学)の各担当看護師に付き、見学を中心とした実習を行う。
	3)午後にカンファレンスを実施し、学びを共有する。
	4)記録用紙の提出(A3サイズ) 図1参照
	記録用紙の設定項目
	(1)対象の特徴と検診の内容
	(2)看護の役割
(3)健康教育についてのまとめ	

6. 倫理的配慮

2006年度健康増進センター実習終了後、実習評価と記録用紙の返却時に、研究目的と方法について口頭および文書で以下の内容を学生に説明し、同意の得られた学生を対象とした。1) 研究に使用するものは、提出された実習記録のみであること。2) 研究への同意・不同意は実習評価には一切関係が無く、不利益は生じないこと。3) 記録の使用に際し、プライバシーは厳重に保護されること。4) 記録は研究以外の目的には使用しないこと。5) 研究の途中経過や結果については、いつでも問い合わせができること。6) 研究への同意撤回はいつでもできること。7) この研

究は、今後の実習指導に役立てることを目的にしていること。

IV. 結果

1. 「健康増進センターにおける看護師の役割について」(表2)

1) 2006年の結果

自由記述件数は176件であり、10のカテゴリーが形成された。最も多かったのは【学生が感じたこと】で51件(28.8%)、次いで【健康増進センターにおける看護師の役割】で37件(21.0%)、以下【体制について】18件(10.3%)、【健診時の援助】16件(9.0%)、【安全】15件(8.5%)、【健康

表2 健康増進センターにおける看護師の役割について

番号	カテゴリー	サブカテゴリー	2005年度 記述割合(%)	2006年度 記述割合(%)	2006年度 記述件数
1	学生が感じたこと	1. 健康教育について	0	10.7	19
		2. 検診の介助	0	5.7	10
		3. その他	0	4.5	8
		4. 問診時の安全確認	0	2.8	5
		5. 二次検査の喚起	0	1.7	3
		6. 病棟との関わり方の違い	0	1.7	3
		7. 安全への配慮	0	1.1	2
		8. 他職種との連携	0	0.6	1
		9. 学生が見聞したこと	2.0	0	0
		10. 今回の実習で感じたこと・学んだこと	1.9	0	0
		11. 今までの実習で学んだこと	1.8	0	0
	小計	5.7	28.8	51	
2	健康増進センターにおける 看護師の役割	1. 安全と満足の保障	7.7	6.3	11
		2. 対象の健康への働きかけ	7.5	9.6	17
		3. サービスの提供	0	2.3	4
		4. 二次検査の喚起	0	1.1	2
		5. 支援者となること	0	1.7	3
	小計	15.2	21.0	37	
3	体制について	1. 検診の介助	5.8	0.6	1
		2. 他職種間の連携	4.5	2.3	4
		3. 業務内容	4.3	7.4	13
	小計	14.6	10.3	18	
4	健診時の援助	1. 精神面への配慮	15.8	9.0	16
		2. 対象のアセスメント	7.0	0	0
		3. セルフケアへの支援	5.5	0	0
	小計	28.3	9.0	16	
5	安全	1. 事前説明	0	4.0	7
		2. 正確な診断	0	1.1	2
		3. 受診者の体調管理	0	3.4	6
	小計	0	8.5	15	
6	健康教育における指導技術	1. 意識への働きかけ	10.1	8.0	14
		2. 行動変容への支援	4.2	0	0
	小計	14.3	8.0	14	
7	健康教育	1. 問診の実際	0	2.3	4
		2. 予防知識の教育	0	0.6	1
		3. 医師の説明内容の理解度の確認	0	2.3	4
		4. 医師との関わり方の違い	0	0.6	1
	小計	0	5.8	10	
8	健診時の看護師の能力・技術	1. 求められる知識	2.2	1.1	2
		2. 求められる技術	2.2	4.0	7
	小計	4.4	5.1	9	
9	対象の特徴	1. 心理的特徴	3.1	1.1	2
		2. ライフステージからみた特徴	1.3	0	0
		3. 患者との違い	0.8	0.6	1
		4. 健康増進センターの対象	0	0.6	1
	小計	5.2	2.3	4	
10	健康増進センターの目的の 理解	1. 健康の保持・増進	1.1	0.6	1
		2. 早期発見・疾病予防	1.1	0.6	1
	小計	2.2	1.2	2	
11	健診の理解	1. 健診の実際	6.5	0	0
		2. 健診の対象	1.6	0	0
	小計	8.1	0	0	
12	看護の定義	1. 健康増進センターの役割	1.8	0	0
		2. 看護の定義	1.8	0	0
	小計	3.6	0	0	
13	受診者の役割	1. 自ら考え決定すること	0.1	0	0
		2. 努力の継続	0.1	0	0
	小計	0.2	0	0	
合計			100	100	176

\* 2006年度の「内容」の記述件数の多い順に列挙した。

\* 2005年度と比較して、2006年度の記述割合の多いものを太字とした。

教育における指導技術】14件（8.0%）、【健康教育】10件（5.8%）、【健診時の看護師の能力・技術】9件（5.1%）、【対象の特徴】4件（2.3%）、【健康増進センターの目的の理解】2.2件（1.2%）の順であった。

サブカテゴリーで最も多かったのは【学生が感じたこと】の『健康教育について』であり19件（10.7%）であった。次いで【健康増進センターにおける看護師の役割】

の『対象への働きかけ』であり、17件（9.6%）であった。以下は、【健診時の援助】の『精神面への配慮』16件（9.0%）、【健康教育における指導技術】の『意識への働きかけ』14件（8.0%）、【体制について】の『業務内容』13件（7.4%）、【健康増進センターにおける看護師の役割】の『安全と満足の保障』11件（6.3%）の順であった。

## 2) 2005年と2006年の比較

2005年と2006年の記述内容の割合の変化を各カテゴリーで比較すると以下の結果となった。

記述が増えていたのは【学生が感じたこと】【健康増進センターにおける看護師の役割】【安全】【健康教育】【健診時の看護師の能力・技術】であった。減少していたのは【体制について】【健診時の援助】【健康教育における指導技術】【対象の特徴】【健康増進センターの目的の理解】であった。2006年に記述がなくなったカテゴリーは【健診の理解】【看護の定義】【受診者の役割】であった。

記述割合が増えた【学生が感じたこと】では、2005年が5.7%であったのに対し、2006年は28.8%と増加しており、サブカテゴリーは『健康教育について』『検診の介助』『問診時の安全確認』『二次検査の喚起』などの8つに分類された。また、【健康増進センターにおける看護師の役割】では、『安全と満足の保障』は減少したが、『対象の健康への働きかけ』は増加している。その他にも『サービスの提供』『二次検査の喚起』『支援者となること』の3つの新たなサブカテゴリーが抽出された。【安全】【健康教育】は2006年に新たに抽出されたカテゴリーであり、サブカテゴリーもそれぞれ3つと4つに新たに分類された。

減少・消滅したカテゴリー・サブカテゴリーをみると、2005年には28.3%あった【健診時の援助】が9.0%に減少し、【健康教育における指導技術】が14.3%から8.0%、【健診の理解】8.1%から0.0%と変化している。サブカテゴリーでは【体制について】の『検診の介助』が5.8%から0.6%へ減少している。

## 2. 「健康教育のあり方について」(表3)

### 1) 2006年の結果

自由記述件数は301件であり、8のカテゴリーが形成された。最も多かったのは【健康教育の理解】で135件(44.9%)、次いで【対象の理解】が65件(21.6%)、以下は、【健康教育における看護師の役割】64件(21.3%)、【健康増進センターの理解】13件(4.3%)、

【学生の振り返り】13件(4.3%)、【健診の理解】7件(2.3%)、【定義・理念】3件(1.0%)の順であった。

サブカテゴリーで最も多かったのは【健康教育の理解】の『健康教育の方法』62件(20.6%)、次いで『感じたこと』37件(12.3%)であった。以下は、【対象の理解】の『受診者の持つ健康意識』29件(9.6%)、『ライフステージから捉えた受診者』27件(9.0%)、【健康教育における看護師の役割】の『支援者としての役割』27件(9.0%)の順であった。

### 2) 2005年と2006年の比較

2005年と2006年の記述内容の割合を比較すると、【健康教育の理解】【対象の理解】のカテゴリーで記述割合が増えていた。

【健康教育の理解】では『健康教育の方法』『感じたこと』『健康教育の意義』『具体的教育内容』のサブカテゴリーが増えていた。【対象の理解】では『受診者の持つ健康意識』『ライフステージから捉えた受診者』『受診者の心理的側面』のサブカテゴリーが増えていた。

記述割合が減ったカテゴリーは【健康教育における看護師の役割】【健康増進センターの理解】【学生の振り返り】【健診の理解】【定義・理念】【疾患の理解】【受診者の役割】の7つのカテゴリーであった。しかし、総割合では減っているものの【健康教育における看護師の役割】の中の『支援者としての役割』『対象をアセスメントすること』『受診者と信頼関係を築くこと』のサブカテゴリーは増えている。また、【健康増進センターの理解】の中の『健康増進センターの看護師の役割』のサブカテゴリーも増えている。

2006年に消滅したカテゴリーは【受診者の役割】であり、サブカテゴリーは【健康増進センターの理解】の『健康増進センターの実際』、【学生の振り返り】の『経験を通しての学び』『実習目標の自己評価』『今後の自己の目標』『健康増進センター看護師への感想』、【健診の理解】の『各検診の理解』、【定義・理念】の『健康日本21』『健康あきた21』『WHOの定義』、【疾患の理解】の『生活習慣病』であった。

表3 健康教育のあり方について

番号	カテゴリー	サブカテゴリー	2005年度 記述割合(%)	2006年度 記述割合(%)	2006年度 記述件数
1	健康教育の理解	1. 健康教育の方法	8.6	20.6	62
		2. 感じたこと	0	12.3	37
		3. 健康教育の意義	5.7	7.6	23
		4. 具体的教育内容	1.5	2.7	8
		5. 健康教育と一次・二次予防の関係	1.9	1.7	5
		小計	17.7	44.9	135
2	対象の理解	1. 受診者の持つ健康意識	7.6	9.6	29
		2. ライフステージから捉えた受診者	4.8	9.0	27
		3. 受診者の特性	2.4	1.7	5
		4. 受診者の心理的側面	0.5	1.3	4
		小計	15.3	21.6	65
3	健康教育における看護師の役割	1. 支援者としての役割	6.1	9.0	27
		2. 対象をアセスメントすること	0	5.0	15
		3. 指導的役割	37.3	4.6	14
		4. 受診者と信頼関係を築くこと	0	1.7	5
		5. 自己研鑽	3.4	1.0	3
		小計	46.8	21.3	64
4	健康増進センターの理解	1. 健康増進センターの看護師の役割	0	2.3	7
		2. 健康増進センターの役割	1.8	0.7	2
		3. 他職種との役割	1.6	0.7	2
		4. 健康増進センターの目的と意義	0.8	0.7	2
		5. 健康増進センターの実際	1.4	0	0
		小計	5.6	4.3	13
5	学生の振り返り	1. 実習を通して感じたこと	4.9	4.0	12
		2. 今までの実習での学び	0	0.3	1
		3. 経験を通しての学び	1.9	0	0
		4. 実習目標の自己評価	1.1	0	0
		5. 今後の自己の目標	0.8	0	0
		6. 健康増進センター看護師への感想	0.3	0	0
		小計	9.0	4.3	13
6	健診の理解	1. 健診の目的	0.9	2.0	6
		2. 健診の実際	1.3	0.3	1
		3. 各検診の理解	0.4	0	0
		小計	2.6	2.3	7
7	定義・理念	1. セルフケアの因子	0	0.7	2
		2. 教育	0	0.3	1
		3. 健康日本21	0.5	0	0
		4. 健康あきた21	0.3	0	0
		5. WHOの定義	0.3	0	0
		小計	1.1	1.0	3
8	疾患の理解	1. 慢性疾患	0.3	0.3	1
		2. 生活習慣病	1.1	0	0
		小計	1.4	0.3	1
9	受診者の役割	1. 自ら考えて決定すること	0.3	0	0
		2. 適切な指導を受けること	0.2	0	0
		小計	0.5	0	0
合計			100	100	301

\* 2006年度の「内容」の記述件数の多い順に列挙した。

\* 2005年度と比較して、2006年度の記述割合の多いものを太字とした。

## V. 考 察

### 1. 健康増進センターにおける看護師の役割について

2006年度の実習記録内容の分析結果、実習方法を変更した効果が現れていると考えられるカテゴリー・サブカテゴリーとして、以下の内容があげられる。【健康増進センターにおける看護師の役割】の記述割合は20.1%であり、2005年度の15.2%より増加している。サブカテゴリーの1つである『対象の健康への働きかけ』は9.6%を占め、2005年度より

も増加しており、全体でも2番目に多い記述件数となっている。これらは、実習記録用紙の項目を変更したことで、記述内容の焦点を絞り易くなったためと考える。

また、2006年度新たに3つのサブカテゴリーが抽出された。受診者が満足を得られるための『サービスの提供』は、一次予防に必要な受診の継続につながっていく。二次予防には欠かせない『二次検査の喚起』の重要性や、生活者として健康管理を行っていく受診者を支える役割としての『支援者となること』の

新たな視点も得られており、看護の役割への気づきが広がっている。一次・二次予防の重要性を踏まえた記述が増えているのは、事前学内オリエンテーションで既習学習の復習を意識付けたことの効果であると考え。さらに、生活者の視点で健康管理を行っていくことに気付いているのは、カンファレンスのテーマを健康教育に絞り、対象に合わせた健康教育の必要性を認識できたことによる効果であると考え。

【健康増進センターにおける看護師の役割】のサブカテゴリー『安全と満足の保障』については、2005年度7.7%に対して2006年度は6.3%と記述割合が減少している。しかし、2006年度は【安全】のカテゴリーが新たに抽出された。そのサブカテゴリーは『事前説明』『正確な診断』『受診者の体調管理』の3つであり、看護師の役割の一つである“安全”に対して学生の理解が深まっているといえる。これは、健康増進センター看護師の安全に対する意識の高さを実習時に感じ取れていることと、安全の配慮に対する具体的な実践を見学することができていることによると考えられる。

新たに【健康教育】のカテゴリーも抽出された。そのサブカテゴリーは『問診の実際』『予防知識の教育』『医師の説明内容の理解度の確認』『医師との関わり方の違い』の4つであり、ここでも学生は看護師の役割の一つである“健康教育”について理解を深めることができたといえる。この結果は、学生を担当した各看護師が、自己の健康教育に対する考え方や看護観を学生に伝えながら実習を進めた効果であると考え。一人の看護師を通して実習を進めることで、学生は担当した各看護師の健康教育に対する考え方や看護観に感銘を受け、強く印象に残っている。

2005年度と比較して記述割合が減少・消滅したカテゴリーが8つあり、記述が求められている「看護師の役割」について焦点が絞られたといえる。記述が消滅したカテゴリーは【検診の理解】【看護の定義】【受診者の役割】であった。減少したカテゴリーは【体制について】【健診時の援助】【健康教育における指導技術】【対象の特徴】【健康増進センターの目的的理解】であった。どちらも直接的には

「看護師の役割」とは結びつかない内容であり、記述内容の焦点が絞られ、求められていない記述内容が減少・消滅しているのは、実習記録用紙の変更と事前学内オリエンテーションの効果であるといえる。

一方、今後も検討が必要であると考えられるカテゴリーとして、記述割合が最も多かった【学生が感じたこと】が挙げられる。そこで抽出されたサブカテゴリーは『健康教育について』『検診の介助』『問診時の安全確認』『二次検査の喚起』『病棟との関わり方の違い』『安全への配慮』『他職種との連携』『その他』の8つであった。記述内容として、看護師の役割の様々な面への視点は持っているが、体験したことや感じたことがそのまま書かれており、既習学習と結びつけて理論化された内容までには至っていない。看護師の役割を考察まで深められ記述できている学生がいる一方、視点を持ち気付くことはできているが、感想で終わってしまっている学生がいることも明らかになった。筆者等の先行研究第2報の結果から、健康増進センターにおける看護師の役割を考察まで深められていない現状を踏まえて、実習方法を変更した結果、一定の効果をもたらしてはいるがまだ十分であるとはいえない。同じ条件の下で記述内容に差が出ているのは、健康増進センターの看護師の持つ役割が多く、見たことや感じたことの意味づけができないこと、健康増進センターの実習が主に見学実習であるため、実習に対する意識に差があること、学生個々の文章力・表現力の差などが要因として考えられる。「看護師の役割」について焦点を絞った見方や感じ方はできているので、それを更に考察まで深めるためには、経験したことの意味づけを行っていくことが重要である。したがって、実習に対する学生の意識が高められるように、事前学内オリエンテーションを再検討することや、思考を段階的に発展させることが難しい学生に対して、実習中に教員がラウンドして、個別の場面毎に看護師の関わりをその場で意味づけし、考察に至れるように働きかけていくことが必要であると考え。また、記録用紙の項目の設定箇所や設問の仕方などについての再検討の必要性も示唆された。



## 2. 健康教育のあり方について

2005年度との記録用紙の変更点として、思考段階が踏める記録用紙を工夫した。2005年度は単に「健康教育のあり方について」を問う記述様式であったが、2006年度は「健康教育のあり方について」を問う前に、見学した問診・健康教育の中から1例を選択して症例として挙げ、受診者の健康意識や生活習慣から健康問題を捉え、それに対する健康教育の内容について考えるという項目を加えた。その結果、カテゴリーとして【健康教育の理解】135件（44.9%）が最も多くなり、全体の記述の約半数を占めた。2番目に多いカテゴリーとしては【対象の理解】65件（21.6%）の記述であった。健康教育を実施していく上では、対象を理解すること、特に対象の健康意識や発達課題を把握することは重要である。【対象の理解】のサブカテゴリーで『受診者の持つ健康意識』29件（9.6%）が全体の中で3番目に多かったこと、『ライフステージから捉えた受診者』27件（9.0%）が4番目に多かったことから、学生が対象を理解した上で健康教育を実施することの重要性に気付くことができているといえる。これは、1例を症例として検討した後に、健康教育のあり方について記述する思考段階が踏める記録用紙に変更したことの効果であるといえる。さらに、学生を担当した各看護師が、自分が実施した健康教育について、学生が見学したことの意味づけができるように意図的に関わったことの効果であるといえる。

【健康教育の理解】の記述割合が44.9%で全体の約半数を占めていること、サブカテゴリーでは、『健康教育の方法』（20.6%）と『健康教育の意義』（7.6%）を合わせて全体の約30%あること、【健康教育の理解】『健康教育の方法』『健康教育の意義』の3つとも2005年度の記述割合と比較して増加していること、この3点から、健康増進センターの実習目的である「健康教育を理解できる」の達成に向けて、今年度の実習方法の変更は効果的であったと考える。健康教育を理解できた要因として、特に事前学内オリエンテーションで成人看護学概論など既習学習の振り返りを喚起し、既習学習と実習との関連性を意味付けたこと、およびカンファレンスで健康教

育をテーマとして健康教育のあり方について考察に至れるように働きかけたことが有効であったといえる。

【健康教育における看護師の役割】はカテゴリー全体の記述割合としては減少しているが、『支援者としての役割』『対象をアセスメントすること』『受診者と信頼関係を築くこと』の3つのサブカテゴリーの記述割合は増加しており、健康教育における看護師の役割の重要性にも気付くことができているといえる。

【健康教育の理解】と【対象の理解】の2つ以外のカテゴリーは、2005年度と比較して減少もしくは消滅している。これは、記録用紙を変更したことで、記述内容の焦点が絞りやすくなったことの表れであり、健康教育を考察するには有効であったといえる。

しかし、サブカテゴリーの中で2番目に多かった記述として【健康教育の理解】の『感じたこと』37件（12.3%）が上げられる。これは、健康教育の理解に対する視点はあるものの、考察までには至っていない内容であると判断された記述である。看護の役割のカテゴリー【学生の感じたこと】と同様に、今後は思考を段階的に発展させることが難しい学生に対して、既習学習と実習で経験したことが相互に関連付けられ考察に至れるように働きかけていくことが必要であると考えられる。

## 3. 両項目を通して

2006年は記録用紙の設定項目を増やしたことにより、「健康増進センターにおける看護の役割」「健康教育のあり方について」の両項目ともカテゴリー数が減少している。各設定項目について学生は考えるべき内容が明確になり、焦点が絞られ項目に沿った記述ができるようになったといえる。

特に「健康教育のあり方」については、思考段階を意識した記録用紙の構成として、1例を症例として取り上げ、健康意識・社会的側面を踏まえて健康問題を考え、必要な健康教育の内容を考える項目とした。その結果、記録内容も段階を踏むことができおり考察につながっている記述が増加している。したがって、健康増進センター実習の目標や評価項目にあわせて記述内容の項目を設定したこ

と、および思考段階が踏めるように記録用紙を工夫し変更したことは、健康教育のあり方を考察するには効果的であったと判断できる。

また、文献を活用した内容や成人看護学概論を踏まえての記述が増えた。これは、事前学内オリエンテーションで、見学実習ではあるが目的意識を持って実習に望めるように動機付けを行ったことや、既習学習と実習との関連性の意識付けをおこなったことによる効果であると考えられる。

事前学内オリエンテーションでは、実習目標についても具体的な目標を設定するように指導している。しかし、目標が明確にできていない学生や実習での発問時の学生の反応にも差があり、事前学習の内容にも学生間で差があるため、目標設定や事前学習の説明についてはさらに検討が必要である。

【健康教育の理解】や【対象の理解】の記述内容が全体の7割近くを占めている。これは、カンファレンスの方法を変更したことの効果であると考えられる。2005年度のカンファレンスでは、各学生が担当した検診内容や看護の役割を共通理解し学びを共有するために、各自の経験や学びの発表を行い、カンファレンスのテーマ設定も学生が行っていた。したがって、実習記録内容には経験したことやカンファレンスで聞いたことがそのまま記載されており、考察に発展することができていない現状があった。そこで、2006年度はカンファレンスのテーマを「健康教育について」に設定し、健康教育のあり方について考察へと発展して考えることができるように、教員は意図的に介入して経験したものと既習学習の内容との関連付けを行った。このことにより、健康教育の理解や対象の理解へとつながったと考える。

## VI. 結論

健康増進センターでの実習方法を変更した効果を明らかにするために、実習記録内容から学びの分析を行い、以下の結果が得られた。

1. 実習記録用紙の項目を、評価表の視点に添って思考段階を踏み記述できるように設定したことで、記述内容の焦点が絞られ視点も広がり明確な記述となった。
2. 実習記録用紙を、思考段階が踏める項目に

変更したことは、健康教育の理解・対象の理解について考察する上では特に有効であった。

3. 事前学内オリエンテーションで、既習学習と実習との関連性や既習学習の復習を動機付けたことによって、理論を活用した記述や健康教育についての考察が増えた。
4. 経験したことの意味づけができるように、教員が意図的にカンファレンスに介入したことによって、自分が経験したことを基に考察されている記述が増えた。
5. 今後の課題として、記述内容が感想レベルに留まっている学生に対しては、場面毎に看護師の関わりをその場で意味付けられるよう意図的な関わりが必要である。

## VII. おわりに

本研究は前期に健康増進センター実習を終了した学生のみを対象としており、全学生の約半数のみの分析である。したがって、後期に実習を終了した学生も含めて、全学生を研究対象として更なる研究が必要である。また、地域看護学実習など他領域の実習が終了した学生と未履修の学生との学びの比較も行っていく必要があると考える。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、快く協力して下さった学生の皆様と、健康増進センター実習で実習方法の変更点を意識して、熱意あるご指導・ご協力頂いたA病院健康増進センターの指導者・スタッフの皆様に深く感謝致します。

## 参考文献

- 1) 逸見英枝, 松本幸子, 横川絹恵, 白神佐知子: 成人看護学実習における学生への学習効果～実習総括記録内容の分析を通して～, 新見女子短期大学紀要, 第19巻, p.159-167, 1998.
- 2) 上田幸子, 横川絹恵, 白神佐知子, 逸見英枝, 松本幸子, : 成人看護学慢性期実習における透析センター見学実習の意義, 新見公立短期大学紀要, 第30巻, p.151-158, 1999.
- 3) 氏家幸子(監修): 成人看護学A成人看護学原論, 廣川書店, 1997.
- 4) 島村美穂子, 鳴海喜代子, 澁谷えり子, 中澤容子, 會田みゆき, 中村織恵: 看護学生の慢性期疾患患者理解の傾向について(第1報)～腎センター実

習における実習記録の分析から～，埼玉県立大短  
大部紀要第1号，p.37-45，1999.

- 5) 廣瀬規代美、中西陽子、青山みどり、奥村亮子、  
二渡玉江：成人看護学実習におけるグループによ  
る集団患者教育の学び～学生のレポートによる評  
価の分析～，群馬県立医療短期大学紀要，第10巻，  
p.41-48，2003.